



日本リンホフクラブ会報

Japan Linhof Club (JLC)

VOL.9

2011年6月25日発行

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-39-14 株式会社ワイズクリエイティブ内

TEL 03-5689-2776 FAX 03-5689-2786

日本リンホフクラブ会報制作委員会 (川太、北島、米澤、酒巻、事務局)

<http://www.linhof-club.com> info@linhof-club.com

Q1. 日芸写真学科の名前は、金丸重嶺先生が創始され、篠山紀信さんをはじめ数多くの写真家を輩出している事で有名ですが、何を教え、どのような学生作りを目指しているのでしょうか？学科の教育方針とか先生の講義内容について教えてください。

私の専門は、カラープリントの画像評価です。どちらかと言うと技術的なウエイトが高い内容です。3年生対象のゼミでは、デジタル的意識を徹底させる為に(撮るところから全て)フルデジタルでの授業を行っています。講座もゼミもデジタルが主流です。写真学科では写真の持っている歴史性、写真に対する教養という柱が一つ。もう一方、写真の持つメカニカルな部分とそれを理解する為の光学理論の様な理系の授業があります。電子画像概論という講座もあります。

Q2. 数年前(退職後ですが)写真学校に1年半通った事があります。そこでは、デジタルはほんの僅かで、90%以上がフィルムでした。日芸ではどうでしょうか？

現在は非常に難しい時代と言えます。フィルムとデジタルが混在しています。先生の中では世代的にアナログ派が多く、学校にはカラー(フィルム)用の暗室も備えています。でも全体的には6対4でデジタルでしょうか。

Q3. 私達の世代は、写真といえばフィルムで、ダゲールから始まった写真(文化)の延長線上にあると思っています。しかし、この10年デジカメの急速な進歩と普及により最近の写真は限りなく“アート”に近づいていると感じます。写真が芸術表現の一つとみれば、色々なソフトを使って修正し、加工し、合成する事も有りですが、写真のもう一つの役割、記録という意味からはどんどん遠くなっています。これは、“写真の自滅”ではないかとみているのですが、どう思われますか？

確かに“記録”は大きなファクターです。町中を撮ったものでも時代が経てばみな記録となります。でも、どちらかと区別すべきではないでしょう。(デジタル以前の)銀塩写真の時代に、既にアート風なも



日本大学芸術学部写真学科 甲田謙一教授にインタビュー

のではありませんし、デジタルになってより容易になったというだけでしょ。写真の領域が広がり、アートが一般化したと考えるべきではないでしょうか。私の講座では、「写真はウソ」と教えています。ベルビアというフィルムは、(実物色でなく記憶色の色故に)「気持ちよく」ウソをついてくれるフィルムです。印画紙の時代は、多くのメーカーからたくさんの種類が提供されていて(多種多様な色が出せる様に)非常に選択肢が広がったのですが、デジタル出力になってからプリンターメーカーの色だけとなりました。然も、メーカーで色の出方が違うので選択肢はある意味で狭くなりました。勿論、染料系と顔料系とでも色の出方が異なります。

Q4. もう一つデジタル写真の場合、フィルムに比べて(工業)技術に依存する部分が多い(然も、技術進化の度合いが早く且つ大きい)分、画像の保存性や真真性が問題と指摘されています。この指摘に対する先生のお考えをお聞かせ下さい。

フィルムが無くなる理由を考えたら同じ事でしょう。写真は、フィルムもデジタルもみな工業技術に依存していることが最大の特徴です。フィルムの技術進歩が遅く見えているだけです。耐久性(保存性)は、印画紙もデジタル出力(顔料系インク使用の場合)も同等とみています。(真



性については)“写真”という言葉の問題です。“光画”とすれば真真性の問題は起きないでしょう。

Q5.“銀塩写真”文化について日頃思っておられる事をお聞かせ下さい。残すべきとか、或は次第に隅に追いやられるのは時代の流れでやむを得ないとか、そもそも銀塩・デジタルと区別する事がおかしいとか・・・。

銀塩写真が残れば残って欲しいと思います。でも、工業製品ですからいつかは無くなる時が来るでしょう。(その中でもローテクである)モノクロフィルムは残り、(ベルビアの様な)高度な工業技術に基づく製品は無くなる可能性が高いとみえています。こういう分野はデジタルに置き換わっていくでしょう。

Q6. 先生からみて学生達は写真をどう捉えているのでしょうか？また、どうい写真を撮りたいと考えているのでしょうか？“アート”化傾向に抵抗感はないのでしょうか？

昔と比べたら変わりましたね。メカ好

き、技術好き（光学理論、電子技術等）が減りました。

甲田ゼミを主力に 学生5人に聞きました

Q1. どんな写真を撮っていますか？フィルム写真についてどう思いますか？

○ 鉄道写真を撮っています。100% デジタルで。フィルムは授業の中でしか使いません。フィルムだと、条件によって撮れる範囲が決まるという感じがしています。

○ 基本的にデジカメで撮り、デジタル処理しています。枚数が撮れるのが魅力。ただ、好きな旅行とか登山では6×7を持参しデジタル出力しています。

○ フィルムが多いですね。カラーのみ。プリントはデジタル出力。杉本博司さんのような写真が撮りたいと思っています。

○ デジタル 100%。日芸に入学して初めてフィルムを経験しました。暗室作業が楽しい事も初体験です。

○ 私も社会人を経て入学。カラーネガとモノクロで撮ってデジタル処理しています。アートっぽい写真を撮っています。

Q2. 写真を職業にしたいと考えていますか？(Yes なら)それはどういう分野で？日芸写真学科の先輩には、篠山紀信さん、斉藤康一さん、大石芳野さん、一ノ瀬泰造さん、坂田栄一郎さん、飯沢耕太郎さんなど著名な写真家、評論家がいいます。大先輩の存在、作品を意識しますか？

○ 写真を職業にできたらいいなと思っています。それを目指して今就活中です。大先輩は意識していません。それを目指しても適わないことが分っています。

○ 実家が写真館なので人を撮る仕事をやりたい。作家としての道は考えていません。実家の写真館では今でも成人式のような集合写真は、6×9 のフィルムで撮っていますよ。

○ 写真の仕事につきたい。広告とかファッションの作家として売れるようになれば最高です。先輩のことは考えた事

ありません。

○ 先輩の事は意識したことありません。将来は、自分の作品を認めて買ってくれる人がいたら、と思っています。

○ 私も先輩のこと考えた事無いです。(所沢キャンパスでの1年間は、別の学校から転入したので2年分の授業を受けたので大変忙しかったが)3年生になって少し時間的余裕ができるので将来の事を考えていきます。写真の仕事につければいい。

Q3.“アート”化しつつある現在の写真についてどう思いますか？

○ 銀塩写真だと表現より記録にウエイトがあると思いますが、引き出しがふえてきた、と理解すればいいのではないのでしょうか。

○ アートっぽいというのは先人達もやっているし、自分の色として出していくとアートの方向に行かざるを得ないと思います。

○ 記録というのは考えた事あるが、スナップは好きじゃない。(写真が)真を写すというのはピンと来ない。

○ 写真は、もともとアート=表現だと思っています。記録という認識はありませんでしたが、この度の大震災でアルバムに見入る被災された方々を見て、記録も大切だと思いました。

○ 記録とか報道(写真)なんて全く興味がありません。写真はもっと色々な幅があっていいと思っている。だから、(日芸にも)ファッションとかスポーツ写真の授業があってもいいと思うのですが、広告、ポートレートといった従来からの大きな括りの授業が多い。

Q4. 昔は写真集が売れたし、私自身も随分と買い求めました。皆さんは写真集を購入しますか？プリントはどうですか？買いますか？写真の保存について考えたことがありますか？

○ 憧れている写真家の作品集は購入します。そういう作家も今は電子書籍に移っています。保存については何とも言えません。プリントを最近買いましたが、

15,000円は高かった。

○ 殆ど買いません。作家の写真が見れば、学校の図書館とかネットで見ればいい。データ保存はメディアの変遷があって難しいが、デジタルはプリントして保存すればいいと思います。

○ 写真集は年に2~3冊買います。プリントは去年2枚購入しました。

○ 気に入った作家の写真集は買いますが、プリントは買ったことがありません。

○ 写真集は、(日芸に入る前社会人として)仕事していた時に買っていました。今はたまにしか買わない。保存については全く気にしていない。無くなれば無くなったで構わない、それでいいと思っています。

—— インタビュアー所感 ——

3・4年生が学生生活を送っている江古田キャンパスにお邪魔しました。

1年次130名ほどが在籍する写真学科は6割が女性。そのせいかどうか何となく華やいだ雰囲気でした。学生達に用意されている諸設備には眼を見張りました。30台のベセラーが並ぶ大暗室、個人が使える間仕切りされた小暗室群にもベセラーが。大小幾つものスタジオには、天井高く吊るされたライト、背景紙、ホリゾン、ストロボに加えフェーズ1までも。貸出用の機材倉庫には夥しい数の三脚、8×10や4×5のカメラ、JOBBO製大判フィルム用現像ドラム等々。時代でしょうか、学生一人一人に大型のMACパソコンとキャリブレーションされたモニターにプリンターがセットされ、真ん中にはB版サイズの大型プリンターが鎮座した数十人が同時に作業出来るデジタルラボもありました。やりたい事は何でも出来るとの印象。著名な写真家が輩出される背景には、こういう恵まれた勉強環境があるのかもしれない。

甲田クラスに在籍している3・4年生の遠藤さん、川嶋さん、小野さん、甲斐さん、小池さんは、みな自らの考えをきちんと持ち、自分の言葉で語ってくれました。何よりも、指導教授の前でも臆せず堂々と喋れるというのが素晴らしい。思わず40数年前の自分を思い出してしまいました。(川太泰夫)

撮影地紹介

八掛良一

北八ヶ岳の中でもひととき美しく、神秘的な針葉樹林に囲まれ幽玄なムードを萌しだす白駒池周辺を巡ります。

白駒池は池を取り巻く様に遊歩道が整備されているので40~50分もあれば一回りでき、周辺の苔の原生林が幻想的な佇まいを見せてくれます。森を埋め尽くしている苔は、岩も倒木も覆い、樹々の幹にもついています。梅雨時は苔が生気を取り戻し、緑の絨毯を敷き詰めたようで大変魅力的です。(川越市在住)

《北八ヶ岳 ~苔むす原生林と白駒池を巡る~》

○ アクセス

1. 中央自動車道：須玉 I/C → 国道 141 号清里方面へ (約 1 時間) 佐久穂・清水町交差点 →

2. 上信越自動車道：佐久 I/C → 国道 141 号佐久方面へ (約 1 時間) 佐久穂・清水町交差点 → 佐久穂・清水町交差点 → 国道 299 号麦草峠方面へ (約 1 時間) 白駒池駐車場

○ 問合せ先

佐久穂町観光協会 ☎0267-88-3956

白駒池畔：白駒荘 ☎090-1549-0605

(衛星携帯電話)



苔むす原生林は神秘・幽玄という言葉がぴったり。

「銀塩モノクロームが写真の本道」

日本写真家協会会員

3・11 東日本大震災で津波に全てを奪われた人々が、思い出が詰まったアルバムを探る姿をテレビが伝えていました。見つけ出した時の歓喜の姿は感動的でした。アルバムは自分史の物的証明ですが、同時に歴史の証言であると言っても良いでしょう。「日本写真史 1840～1945」(日本写真家協会編纂・1971年刊)の黎明期・開化期・営業写真はほとんどが写真帳用として撮影された記念写真です。個人用に写された写真が見事に歴史を語っています。映画やテレビなどの動画は音声などの音響効果でテーマへとイメージを誘導します。それに対して写真は、見る者の感情移入が可能で自由にイメージが展開できるのが特徴でしょう。だからアルバムの写真にそれぞれの思いを重ねることができるのです。

私は『モノクロ写真研究室』というホームページを運営していますが、「デジタル時代に、まだ銀塩モノクロ写真にこだわっているのか」と嘲笑されます。相手の言い分は「デジタルは便利だ」という一言に尽きます。便利がそんなに良いことでしょうか。福島第一原発事故で思い知らされたのは、IH調理器具など便利さの追求だったのではないのでしょうか。

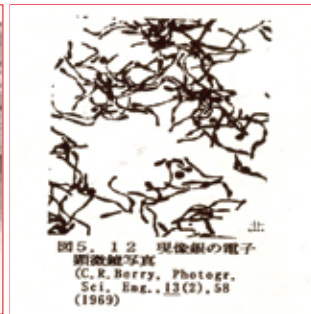
デジタルで問題なのはデータの保存です。写真家には、映像記録である写真作品を後世に残すという責任があります。写真評論家の重森弘淹先生が「写真家にとってカメラは消耗品で、ネガこそが財産だ。」と仰っていたことを思い出します。確かにデジタルデータには劣化はありませんが、記録されたメディアには保存性の疑問があります。また再生装置の世代交代も問題です。必要なときにメディアが再生できるかという重大事です。モノクロ写真ならば、

ネガがあれば密着プリントができますし、印画紙が無ければ青写真(Cyanotype)を手作りする方法もあります。

モノクロ写真は銀画像(金属銀)で出来ています。つまり形のある物質です。物質ゆえに注意すれば100年単位の保存性があります。まさに映像を後世に残すための最良の方法ではないでしょうか。ところで銀粒子はどんな形をしているかご存知でしょうか。現像前のハロゲン化銀の結晶の写真は良く見かけますが、画像を形成している金属銀粒子の写真はあまり見ることはありません。「プリント上のグレー部分の黒い点を粒子だ。」と思われている方がおられますが、プリント上で黒くなるということは印画紙に光が当たった証拠です。粒子ではなく隙間なのです。隙間を光が透過して印画紙を感光させたのであって粒子で



ハロゲン化銀の結晶



現像後の金属銀粒子

出典：中村賢市郎著「写真科学」

はありません。銀粒子は、処理中膨潤したゼラチン乳剤層を漂っています。粒状性の悪化は、硬膜作用の弱った定着液や過度な水洗が原因でゼラチン乳剤層を漂う銀粒子が偏って起きます。現像時にハロゲン化銀の現像核(一般には潜像と呼ばれる)から還元されてフィラメント状あるいはダブルコイル状と呼ばれる形状で出てきた金属銀が絡みあって画像を形成しています。その

画像に照射された光はこのフィラメント状の金属銀の塊の中で乱反射を繰り返して吸収され、黒く見えるようになります。高級バライタ印画紙の最高濃度は2.3とされています。濃度(黒さ)は対数で表示されますので、濃度2は1%の反射率となります。2.3だと約0.8%の反射率の黒となります。コダックのグレースケールの最高濃度が1.9(反射率1.3%)ですから、濃度2.3の黒さをご推測いただけるでしょう。モノクロ写真の階調の豊かさは、漆黒の黒から純白の白へと幾つものグラデーションの変化からもたらされるものです。

漆黒の世界を得ることができるモノクロ写真は、書や水墨画など墨の文化を持ち、黒の美しさを知る能力をDNAに書き込まれている我々にとって最良の表現方法ではないでしょうか。

銀塩こそが写真、しかもモノクロームがその本質、と熱く語る小山プロは、30年以上東京総合写真専門学校で教鞭をとられました。日本写真

真学園で講師を務めた後、現在は現代写真研究所にて写真科学・写真史担当講師。1991年からは茨城県と千葉県の写真部の高校生対象の講演や作品審査を現在まで20年間続けておられます。また、日本写真文化協会の機関誌「写真文化」にも「私のライフワーク『モノクロ写真にこだわる』」と題して連載したこともあります。

銀塩モノクロ写真に対する拘りは並ではありません。その小山プロ

に日頃の思いの一端を書いて頂きました。当クラブのメンバーでモノクロームを手掛ける人は正直決して多くはありませんが、小山プロの文章を読んで皆さんどんな感想を持たれたでしょうか?これを機会にモノクロームに手を出されては如何ですか。写真の使命の一つ、記録と保存の為に、そして当クラブの目的でもある「銀塩写真文化の継承と発展」の為に。

第3回総会報告 <<<

日本リンホフクラブ第3回総会が4月23日(土)に出席者34名(委任状28名)で開催されました。

第1号議案 役員に関する規約改訂

今後の活動活発化に備える事と地方組織の整備を目的に、役員を現在の11名から14名にする規約改訂は原案通り満場一致で可決。

第2号議案 前年度の活動報告及び今年度の活動計画

清水会長の総括報告(会報9号に同封)に始まり、写真展、会報、技術勉強会・講習会、撮影会につき各担当委員からそれぞれ報告された。

■写真展 第2回目も「日本の輝ける風景」と題して第1回と同じ様な時期に開催する。従い今年度の作品提出締切は9月末。大阪と京都の2カ所で実施するか、どちらか1カ所に絞るか検討する。

作品サイズは全倍にして欲しいとの要望についても今後の検討課題。

■会報 今年度も年4回の発行。原稿集めに苦労している。会員からの積極的な投稿(含.写真)をお願いしたい。

■勉強会・講習会 前年度の勉強会出席者は、平均で24名。今後の技術勉強会は、会員を講師とすることも実施。講師募集。手を挙げて欲しい。また、会員増強を図るため、新宿御苑での基礎勉強会は、5月から隔月実施する。

■撮影会 今年度は奈良・春日大社の森で、11月19日～20日に実施する。詳細な案内状を、会報9号(6月末発行)及び10号(9月末発行)に同封する。

■事務局報告 4月22日現在の会員数は105名。大判カメラ愛好者が多いと思われる愛知県、宮城県の会員がゼロなのでここでの会員確保が課題。このたびの東日本大震災の被災者が、会員の中で複数名いるが、幸いに人的被害は無かった。

写真展を終えて

日本リンホフクラブの第一回写真展「日本の輝ける風景」が、東京、大阪及び京都の三カ所で無事盛況裏に終了しました。感想を一言ずつ。

松井 予想した以上に反響があり、会員の皆さんも喜んでいました。第一回目としては上出来だ。

高島 本当に無事に終了。出展者は勿論、会員にとっても良かったと思う。

米澤 最初三カ所は多すぎたと思ったが、やってみたらどこも盛況。来年も三カ所でやった方がいい。

江口 当クラブ発足後直ぐの開催だったが、成功裏に終わったと思っている。

秋山 三カ所やって良かった。来年も関西で是非やろう。

宗像 当クラブ発足後 2 年目で写真展を開催出来たことにホッとしている。問題点が浮き彫りになったが、やって良かった。

宇田川 第一回目にしては、それなりの作品が集まり、それなりの展示が出来た。反省点があるのは当然で、議論して直していこう。

清水 第一回目としては大成功。その要因は、一つにリンホフというネームバリュー。加えて大新聞の威力と担当者の尽力。そして、会員の真摯な撮影姿勢が作品に出ているのが、好評価の最大要因だと考えている。

福井 非常に良かった。京都ではリンホフ 3000 を購入し、会員になった人もいた。作品を出さなかった人も展示に協力してくれた事が嬉しかった。

東京展での読売新聞の取材によるマスメディア効果は凄いものでした。次回以降、どう広く社会に知らしめて集客力を高めていくか？具体的なアイデアは？

宇田川 メディア対策は、早め早めにやる事が重要。写真雑誌などに特集を組んでもらう様な動きも必要。アピールポイントは、リンホフというカメラのブランド力だろう。

秋山 日経新聞最終面への売り込みをトライしたらどうだろう。

松井 テレビの活用を考えてみたらどうか。

福井 「アカンで当たり前」として行動したら、結構取り上げて貰える。“蛇腹”がマスコミへのキーワードになる。

今回は応募者全員が展示できましたが、次回以降展示作品が増えた場合の対策は考えていますか？

江口 東京・四谷のポートレートギャラリーは、全紙で 60 点が MAX. だろう。

福井 大阪の富士フィルムフォトサロンでは、全紙で 80 点展示可能だ。

松井 選んで落とすよりは、二段掛けしてでも全て展示したい。

秋山 趣味のクラブ故、応募者全員を展示するのが原則と思う。

宇田川 写真の基本に反するものは落としても、応募者は全員展示すべき。

江口 ノートリミングでプリントしたが、場合によっては若干のトリミングも有りと考えてはどうか。

米澤 ノートリが原則。これは基本だと思う。基本は守りたい。

大阪、京都と距離的に近いところで続けて開催しました。集客という観点から一本化した方がいいのではという意見があります。どう考えますか？

清水 大阪と京都では、同じ関西でも文化圏が異なるので二カ所開催は必要。

宇田川 費用がかからないのであれば、どこでもやったらいいと思う。

福井 京都人は文化的プライドが高い。それが京都開催の意義だ。

それでは、展示方法等今回の反省を含めて次回以降の対応についてお聞きします。

まず、季節ごとに作品を展示するのではなく、名前順に並べています。この方法についてはどうですか？

宗像 名前順がいい。以前、某フォトサロンで季節毎に並べてあるのを見たことがあるが、同じ様なのが続き飽きがきた。

江口 過去の展示経験から名前順に並べたが、結構上手くいった。初年度は“あ”行から、2 年目は“か”行から、という具合に毎年変えていくというやり方で。タテ・ヨコ含め若干の前後入れ替えはあるにしても。

米澤 アイウエオ順賛成。

秋山 来場されるお客さんにしてみたら、出展者の作品をまず見たい筈。名前順の方が分かり易い。

展示されている作品の内容が偏っているとの指摘があります。

高島 55 点中、山岳が一番多くて 12 点。

清水 そんなに偏りが有ったとは思っていないけれど。

福井 大阪では山岳が目立ったが、京都ではそんなに目立たなかった。京都の来場者は山岳写真愛好者が多かったが。



秋山 健一・宇田川 哲夫・江口 英信・清水 美

高島 正志・福井 章二・松井 光夫・宗像 知機・米澤 章

司会：川太 泰夫 事務局：木戸 嘉一

プリントの仕方に濃度のバラツキが見られません。改善方法は？

松井 1~2 点プリント指示をきちんとすればもっと良くなるのがあったのは確かだ。

秋山 ポジの濃度が違うのでやむを得ないだろうが、今後は(焼きの判断が難しい)ポジには見本プリントを添付して貰うのも一つの方法だろう。

清水 照明次第で見映えがかなり違うようだ。

高島 四谷の会場は明るかったので、明るめの作品が余計明るく見えたかも。

案内葉書の過不足はどうでしょうか？

秋山 丁度良かったのでは。

福井 会員全員に(今回は 2 枚だったが、例えば)20 枚ずつ送って PR して貰ったらどうか。

図録が欲しい、と言われる来場者が結構おりました。今後どう対応されますか？

秋山 不要だろう。費用も結構かかるし。

宗像 出展者の個人負担が増える。2,000 円以上では売れないし。

宇田川 当クラブの写真展がメジャーとなってからでも遅くないと思う。

リンホフカメラを展示して操作法についての簡単な説明が出来る様にしていました。今後も継続ですか？

福井 継続すべきでしょう。実物を見て入会する人がいるし。

芳名録の活用方法は？次年度も案内が欲しいという一般来場者へは案内状をきちんと出すのでしょうか？

高島 東京展には結構いた。出すのが礼儀だし、出す予定です。

宗像 芳名録が累積してくると、これの管理が大変。管理方法を今からきちんと考えておく事が大切。

福井 芳名録に感想欄と次回案内状希望有無欄を設けたらいいのでは。

会員から写真のサイズを全倍にして欲しいとの意見が出ています。対応策は？

秋山 展示スペースの制約上無理です。

宗像 リンホフで撮っている以上、どなたにも全倍にして欲しいという気持は有るだろうが、全員の展示が出来なくなるし、また費用もかかる。

宇田川 中判と比べたら全倍の方がいいのは間違いない。数点全倍とすると、今度はセレクトするのが難しく悩ましい。

オープニングパーティーに対する反省点はありますか？

高島 写真展でのパーティーは初体験なので、新鮮な印象だった。

宇田川 でも、ちょっと遅れて行った

ら(食べ物)何も無かった。展示会場でのパーティーはさっとやって、近くの飲み屋でやった方がいいのでは。

秋山 パーティーは、会員の親睦が主体で、プラス広報という考え方でやる方がいいと思う。

写真展への応募のタイミングが明確に通知されず、参加したくても出来なかったとの意見が寄せられています。どう応えていきますか？

宗像 応募の締切日が途中で変更されたので、そういう印象を持たれたのかもしれない。

宇田川 会報にてきちんと通知する、

としか言いようがないと思う。

次回への検討事項があればどうぞ。

木戸 次回の写真展に関してだが、山岳写真クラブでは会場で展示作品を販売し、売上の全額を日赤に寄付する由。検討してみてもはどうだろう。

以上

尚、来年も「日本の輝ける風景」と題して第二回目の写真展を開催します。応募締切は、今年の9月末です。同封の応募要領に従ってご応募下さい。応募用紙も同封してあります。是非ご参加を！



リンホフ賛歌

坪井 甫允

ら入れなければなりませんでした。これがとても不便で、6年程前にリンホフマスターテヒニカに変えて以来、私は大変このカメラが好きに成りました。そして現在に至っております。

撮影地は現在

大判カメラを使う前は 35 ミリ、中判カメラで、被写体は富士山ばかり写していました、大判カメラなんて大きくて、重くて、なんか操作が面倒な難物と敬遠しておりました。15 年程前に 4x5 判の画面を見て、何とすばらしい透明感のあるポジだと感心しその魅力に取りつかれました。これで富士の四季をと意気込んで、初めは他のメーカーの機種を購入して使っていましたが、レンズボードの穴計が小さいため、レンズによっては後レンズを外して蛇腹の後方か

も住居から近い富士山の周辺が多いのですが、真冬の寒い早朝から出掛けるのは体力的に負担が大きくなりつつあります。最近では上高地の風景に魅せられ、毎年春・秋と2回は出掛けています。皆様良くご存知の大正池から河童橋までの周辺で、ごく一般的なコースをたどっています。また、山梨県の甘利山のレンゲツツジと富士山の景色、忍野部落の冬景色、富士五湖周辺、朝霧高原、芝川柳野等、全てありふれた場所ばかりで日帰り撮影のみであります。撮影

も単独行で、年に数回と少ないのでなかなか上達はしませんが、リンホフの魅力はすばらしく安心できるカメラだと思えます。撮影現地ではデジタル一眼が主流の時代ですが、やはりまだ銀塩大判の魅力は衰えていないと思えます。中高年者から「こんなカメラを使って見たかった・・・」とよく聞きます。

私はボディの左側の皮製のバンドを外して、木製グリップに付け替えています。改造はあまりしたくありませんが、カメラホールディングがし易くなったと思っています。純正アナトミカルグリップも在りますが、高価なので市販の物を取り付けました。

私自身これから後何年大判撮影が継続できるのか分かりませんが、リンホフを使いこなすべく勉強していきたいと思っています。昨年4月に日本リンホフクラブに入会させて頂き、諸先輩の皆様今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

(静岡市在住)



作品 講評会

DVD

遠方にお住まいで東京での講評会は参加が難しいとおっしゃる方、都合が悪く当日参加出来ないという方に。講評の様子を video で撮影します。

1. 原板(ポジ)を送って→2. プロ写真家に講評
3. DVD に収録→4. 返却

■作品点数 ポジ5点まで(ポジを入れているスリーブに1/5、2/5の様に番号とお名前を記入して下さい)。

■費用 3,000円(ポジ及びDVDの送料を含む)事務局の銀行口座にポジ送付と同時に振り込み下さい。

※期日迄にお振り込みが無い場合は、講評はできません。

■送付のタイミング 講評会1週間前迄に事務局宛お送り下さい。

■返却 講評会后10日以内にお送りします。

尚、作品の取り扱いには慎重に行いますが、万が一の事故には責任を負いかねます。あらかじめご了承下さい。

■講評会スケジュール

7月23日(土)、10月22日(土)、24年1月14日(土)

■事務局

〒113-0033

東京都文京区本郷3-39-14

株式会社ワイズクリエイティブ内

日本リンホフクラブ事務局



大判カメラ アラカルト

カットホルダー使用で失敗しない方法 デジタルの時代になってフィルムの消費量が減るにつれ、フィルムの値段が一時期に比べて随分と高くなりました。そのせいかどうかは分かりませんが、当クラブのメンバーでもカットホルダーを使用する人が多くなった様な気がします。確かにQL(クイックロード)は、フィルムの詰め替え不要、データ記入が容易など大変便利です。然し、シートで購入するより 2~3 割高いのも事実です。4x5 のフィルムをシートで購入すると、必ず自分でカットホルダーに詰めねばなりません。ダークバッグか HARRISON 社の "Film Changing Tent" (内部に大きな空間が出来るので作業性が抜群に良くお勧めです。工作が得意な人は、四角い箱を利用して自作することも可能でしょう。) を使用するのが一般的です。指先のみ作業ですから、きちんと入れた積もりが入ってなく、撮影後にいざ引き板(蓋)を差込もうとしても上手く入らず、フィルムを入れる溝を間違えた事に気づかされます。そこで考えました。答えは至って簡単です。要は、フィルムを入れた後に(装填した全ての)カットホルダーを点検すればいいのです。こんな単純なことに思い至るのに何度苦い経験をしたことか! お金の事もさることながら、折角のシャッターチャンスを逃してしまった事が悔やまれます。逃がした魚はいつも大きいのです。

作品講評会 04.23 sat. <<<

■ **作品講評会報告** 今年度最初の作品講評会は、近藤辰郎先生。冒頭、言いたい事言うから、自分なりに咀嚼して聞いて下さい、と。そして、各自が一枚、一枚作品の撮影場所、狙いなどを言ってからコンタツ先生の講評。時折駄洒落も交えての終始楽しい雰囲気の中でのご指摘でした。
《個々の作品に対して》
①露出、ピント、構図、これが三原則。
②超広角(75mm以下)と望遠(400mm以上)と、両極端で撮るのもおもしろい。露出は、ワイドでの撮影は若干(1/3)オーバー気味に、逆に望遠はアンダーがいい。
③「行きました、撮りました」では駄目。撮る前に良く観察を。

④ 撮影データはきちんと記録するように。私は、撮影月日、使用レンズ、露出のみならず、撮影時刻まで記録している。
⑤構図が 4x5 でどうにもならない時、6x7、6x9、6x12 等のホルダーを使う事でまとまることもある。持参すると役立つ。
⑥ 失敗なくして成功なし。誰もがみな失敗の経験をしている。
⑦ 富士のフィルムなら、(メーカー推奨は+1 までだが)+2 増感しても大丈夫。
⑧ 画面内に余計なものが写り込むなら撮らない事。妥協しては駄目。
⑨ 樹木を撮る時は、芽吹きとか紅葉とかの時期に撮るといい。
⑩ モノクロの写真を見ると落ち着くね。



《総評》
皆さんが、苦勞して撮影していることは(作品を)観ていて良く分ります。でも構図は、カメラをセットする前にじっくりと観察して、良く考えて下さい。デジタルの時代にフィルムに拘る価値は十分あります。作品はやはりフィルムです。皆さんと一緒にこれから銀塩でいきましょう。

大判基礎勉強会 05.14 sat. <<<

■ **勉強会報告** 5月14日(土)、新宿御苑には 20 人以上のクラブメンバーと大判カメラの操作を勉強したいという愛好家 8 人が参集しました。富士フィルムプロ写真 Gr. の宇井チーフも大判初心者として参加。また、アサヒカメラ誌の取材もありました

(同誌 8 月号の "写真道楽館" に掲載される予定)。まずは、木戸さんのアオリについての基礎講座。ビューカメラや積み木等を持参しての懇切丁寧な説明に皆さん熱心に耳を傾けていました。その後、幾つものグループに分かれて新緑まぶしい苑内で会

員が実践指導。お昼の集合時刻を過ぎても戻って来ないグループもあり、盛況のうちに終了。次回は、7月9日(土)です。会員でもアオリを勉強したいという人は是非ご参加を。

例会・基礎勉強会・撮影会

《会場について》 公共会議室利用のため、開催日の一ヶ月前に決定致します。ホームページ等でご確認ください。

開催日	参加費	10:00~	13:00~	会場	備考
7月23日(土)	3000円	技術勉強会・講師:荻島孝之※	作品講評会・講師:石橋睦美	湯島会館	※「フロア語るポートレート撮影」
10月22日(土)	3000円	技術勉強会・講師:川太泰夫※	作品講評会・講師:大山謙一郎		※「モノクロームを始めませんか」大判モノクロームの魅力
'12年1月14日(土)	3000円	技術勉強会・講師:宇田川哲夫※	作品講評会・講師:未定		※「山岳写真の魅力」
11月19~20日(土、日)『奈良・春日の森』撮影会 詳細は別紙					
7月9日(土)、9月17日(土)、11月5日(土) 『新宿御苑大判カメラ基礎勉強会』《無料》 10:00~13:00					
※大木戸門 売店横休憩所 集合					

お申込方法、ご注意

- ① 参加希望のイベントを選択してください。
- ② 日本リンホフクラブ事務局に電話、ファックス、メール等で参加希望の旨をご連絡ください。
- ③ イベント当日は時間厳守でご参加ください。なお、勉強会・講評会参加費は当日徴収致します。撮影会参加費は指定期日迄にご納入ください。
- ④ 勉強会・講評会のキャンセル可能日は3日前までとし、以降は欠席の場合でも後日参加費を徴収させていただきます。
- ⑤ 撮影会のキャンセルにつきましては、日数により取り消し料が掛かります。催行日 20~8 日前 30%、7~2 日前 40%、前日 50%、当日、無連絡、旅行開始後は 100%となります。



《編集後記》 東日本大震災で被災された方々にお見舞い申し上げます。会員の中にも自宅が損壊の方がおられますが、皆さん無事で何よりでした。当クラブも暫くは活動を自粛しておりましたが、4月の総会以降活動再開、より活発に。それにしても、このたびの震災で写真やビデオ等映像の持つ力を改めて感じました。100年後或は200年後にこれらの膨大な映像、特に写真が地震・津波・原発事故の教訓として活かされるのではないかと想像しています。後世に残す為に撮影している訳ではありませんが、残ったものは立派な記録です。昨今多いアートも写真、記録も写真。でも、やっぱりフィルムでしょう! (川太)